

文化情報の発信のための基盤整備 —文化情報総合システム—

文化庁長官官房総務課文化政策室 佐藤 弘毅

<概要>今日、高度情報通信社会の構築が進みつつあり、一方で、国民の文化志向の高まりが見られる。文化庁では、これらの現状を踏まえ、文化に関する総合的な情報発信を行うための基盤整備として以下の3つのシステムから成る文化情報総合システムの整備を進めている。

(1) 文化財情報システム・美術情報システム

(2) 地域文化情報システム

(3) 現代舞台芸術情報システム

<キーワード>文化、情報提供、インターネット、パソコン通信、データベース

我が国では現在、マルチメディアの発展に見られるように、高度情報通信社会の構築が進みつつある。また、その一方で、物の豊かさよりも心の豊かさを求める人の割合が増えており、国民の間における、文化志向の高まりと広がりが見られる。これらの現状を踏まえ、文化庁では、文化情報総合システムとして、情報化の進展に伴った、文化に関する総合的な情報発信を行うための基盤の整備を行っている。

文化情報総合システムの内容は、大きく分けて3つある。

第一に、国内の博物館・美術館の収蔵品の情報を、インターネットを利用して検索することを可能にする、「文化財情報システム・美術情報システム」。

第二に、地域文化振興のため、文化行政、公立文化会館、芸術家・芸術団体の情報の相互交流を進めるための、「地域文化情報システム」。

第三に、現代舞台芸術に関する国内外の情報・資料を収集・提供するための、「現代舞台芸術情報システム」。

以上の3つのシステムについて、それぞれ

詳しく紹介する。

① 文化財情報システム・美術情報システム

文化庁、国立博物館、国立美術館及び国立文化財研究所では、各機関が所有する収蔵品や文化財に関する情報をデータベース化し、各機関がインターネットを利用して情報を国内外に提供するシステムの構築を進めている。平成8年度は、一部運用開始として、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、東京国立文化財研究所の6か所からインターネット上にホームページを開き、展覧会情報を中心に実験サービスを提供している。

また、文化庁、奈良国立文化財研究所においても、平成8年度中にホームページを開き、情報提供を行う予定である。

収蔵品情報に関しては、各館が情報提供を始めているところであるが、知りたい情報を探す場合、それぞれの博物館等のホームページを開き、提供している情報を一つ一つ調べるのは手間がかかる。そこで、各機関が提供している情報を総合的・横断的に検索できるシステムの構築も目指している。

このシステムが完成すると、例えば、パソコンから、作品名称、作者、年代、種別などの検索条件を入力すれば、各博物館等でインターネットを通じて提供している情報の中から該当するものが一覧（タイトル）で表示され、その中から知りたいものを特定すれば、自動的に提供情報（画像・解説等）に接続されることとなる。

この検索システムは、今後、インターネットを利用して情報を提供している公私立の博物館・美術館や埋蔵文化財センター等の参加・協力を受けて、検索対象情報の拡大や機能の充実を図っていくこととしており、将来的には、全国レベルでの総合的な検索システムの構築を目指している。

○ホームページを開設中の国立博物館、美術館及び文化財研究所のアドレス

（東京国立博物館 <http://www.tnm.go.jp/>）

（京都国立博物館 <http://www.kyohaku.go.jp/>）

（奈良国立博物館 <http://www.narahaku.go.jp/>）

（東京国立近代美術館 <http://www.momat.go.jp/>）

（京都国立近代美術館 <http://www.momak.go.jp/>）

（東京国立文化財研究所 <http://www.tobunk.ac.jp/>）

② 地域文化情報システム

人々が優れた芸術文化に身近に接することができ、また、個性豊かな芸術文化活動が活発に行われるような環境を整えることが強く求められており、全国各地で文化会館の整備が進められるようになってきている。その一方で、芸術文化活動に関する情報などの不足から、自ら公演を企画、実施することができない会館も少なくない。そのため、地方公共団体や公立文化施設が文化に関する施策の立案や公

演事業を企画するために必要な情報を提供するとともに、芸術団体と公立文化会館の相互で芸術文化情報の交流を促進することを目的とした、パソコン通信ネットワーク「地域文化情報システム」の整備を進めている。

このシステムは、文化庁、都道府県等の文化行政担当部局と全国の公立文化会館、芸術家・芸術団体などをパソコン通信ネットワークで直接結びつけるもので、芸術関係団体からの公演情報の提供や、文化庁、（社）全国公立文化施設協会、各公立文化会館からのさまざまな情報にアクセスすることができ、これらの情報交換がリアルタイムで行えることを特徴とする。さらに、このネットワークは、（社）全国公立文化施設協会、（社）日本芸能実演家団体協議会とも連携し、全国の公立文化施設の施設・事業概要の情報、芸術家・芸術団体のプロフィールなどの個別・事業概要の情報、地方公共団体の文化に関する施策等の文化行政情報などを直ちに検索できるデータベースを持ち、その一部の運用を平成8年6月5日から開始している。

③ 現代舞台芸術情報システム

平成9年10月開場に向けて準備を進めている新国立劇場では、現代舞台芸術に関する諸活動を円滑に進展させるために、現代舞台芸術全般にわたって必要な情報・資料を収集・保存し、利用することができる機能をもつ「現代舞台芸術情報システム」の整備を進めている。

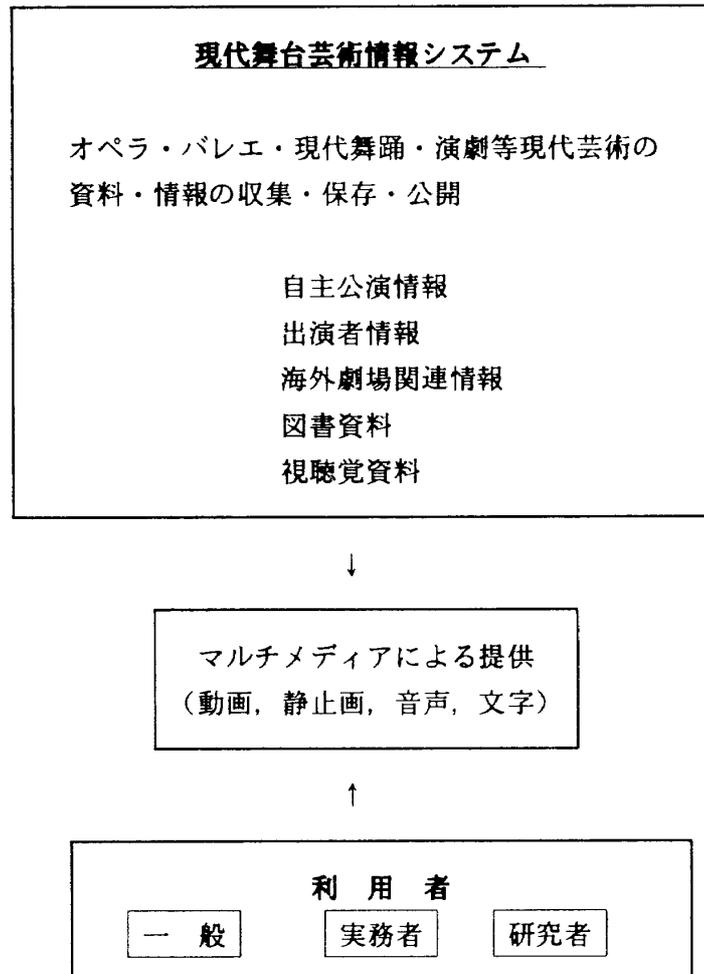
このシステムは、新国立劇場における公演を中心に現代舞台芸術に関するさまざまなマルチメディア情報をデータベース化し、動画、静止画、音声、文字情報としての提供機能を持つもので、実演家、芸術団体、劇場経営者をはじめ、現代舞台芸術の研究者や行政関係者、そして一般の現代舞台芸術愛好者等に広く利用されることを目指しているが、まず第一段階として、新国立劇場内で利用できるよ

う準備中である。

将来的には、芸能実演家団体協議会の「芸能文化情報センター」や公立文化施設協議会の「芸術プラザ」などの文化庁が推進する

「地域文化情報システム」をはじめとして、現代舞台芸術に関わる国内外の機関を結ぶ総合情報ネットワークの整備を進めていく予定である。

○現代舞台芸術情報システムの概念図



文化情報総合システムの構想図

